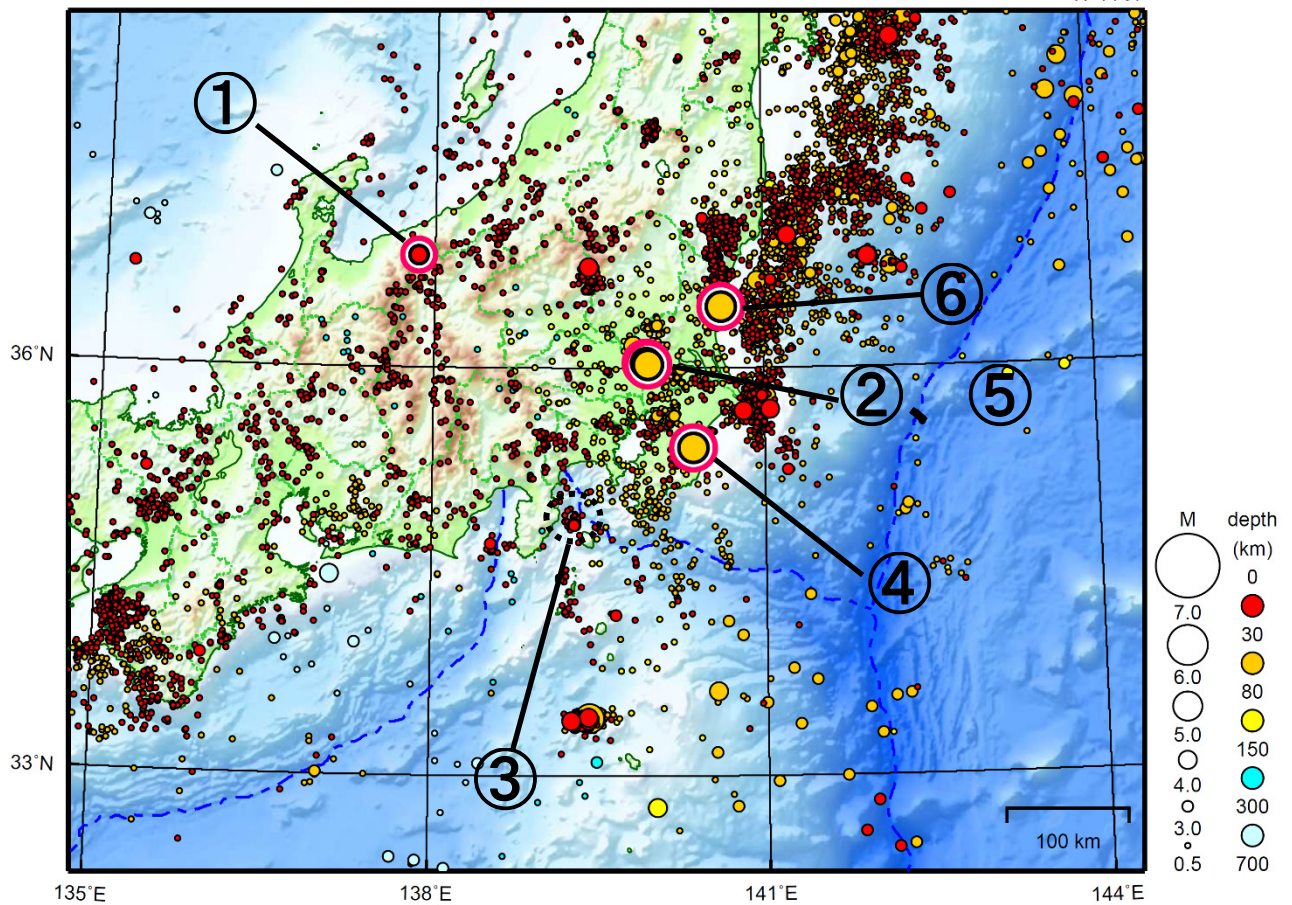


関東・中部地方

2016/07/01 00:00 ~ 2016/07/31 24:00

N=7797



地形データは日本海洋データセンターのJ-EGG500、米国地質調査所のGTOP030、及び米国国立地球物理データセンターのETOPO2v2を使用

- ① 7月1日に新潟県上越地方でM4.6の地震（最大震度3）が発生した。

情報発表に用いた震央地名は[長野県北部]である。

- ② 7月17日に茨城県南部でM5.0の地震（最大震度4）が発生した。

- ③ 7月17日から伊豆大島近海で地震活動がやや活発となった。

- ④ 7月19日に千葉県北東部でM5.2の地震（最大震度4）が発生した。

情報発表に用いた震央地名は[千葉県東方沖]である。

- ⑤ 7月20日に茨城県南部でM5.0の地震（最大震度4）が発生した。

- ⑥ 7月27日に茨城県北部でM5.4の地震（最大震度5弱）が発生した。

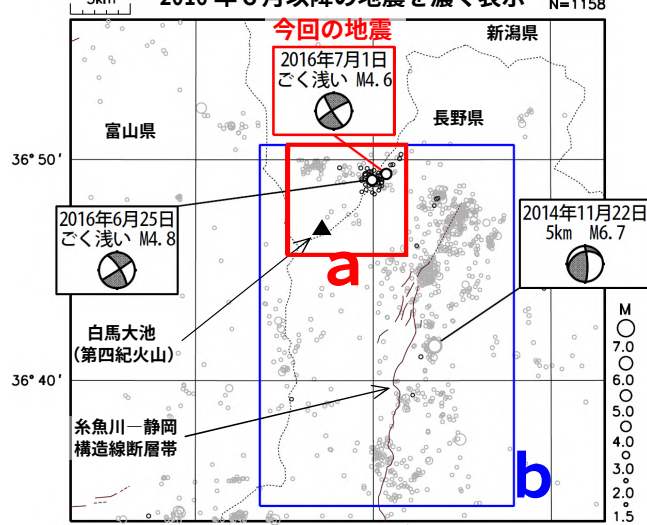
[上述の地震はM6.0以上または最大震度4以上、陸域でM4.5以上かつ最大震度3以上、海域でM5.0以上かつ最大震度3以上、その他、注目すべき活動のいずれかに該当する地震。]

7月1日 新潟県上越地方（新潟・長野県境付近）の地震

震央分布図

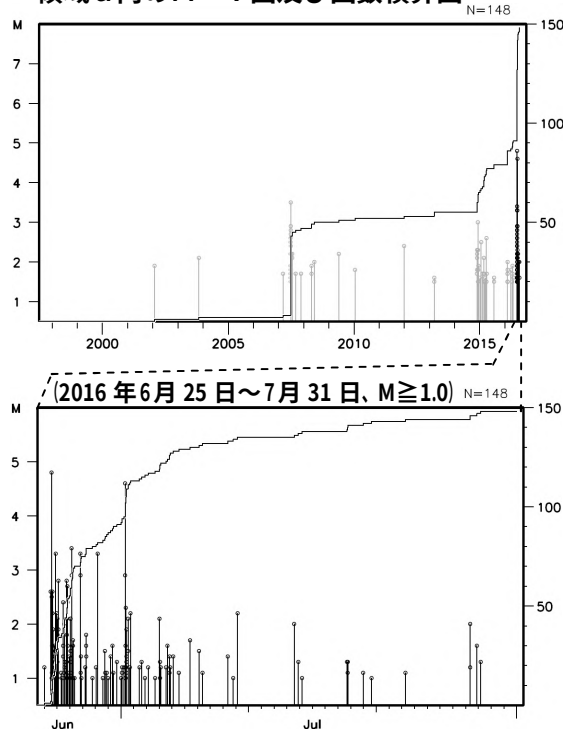
(1997年10月1日～2016年7月31日
深さ0～30km、 $M \geq 1.5$)

2016年6月以降の地震を濃く表示



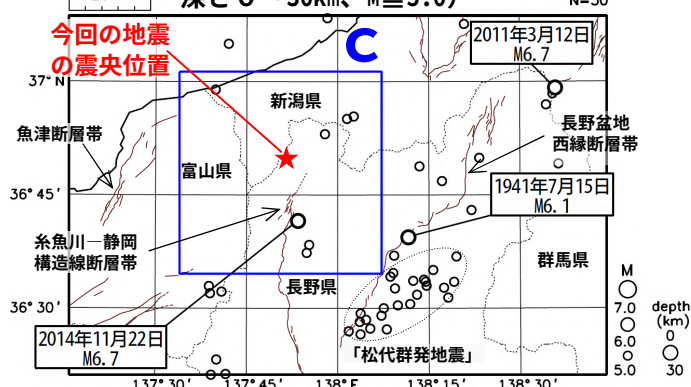
図中の細線は地震調査研究推進本部の長期評価による活断層を示す

領域a内のM-T図及び回数積算図



震央分布図

(1923年1月1日～2016年7月31日
深さ0～30km、 $M \geq 5.0$)



図中の細線は地震調査研究推進本部の長期評価による活断層を示す

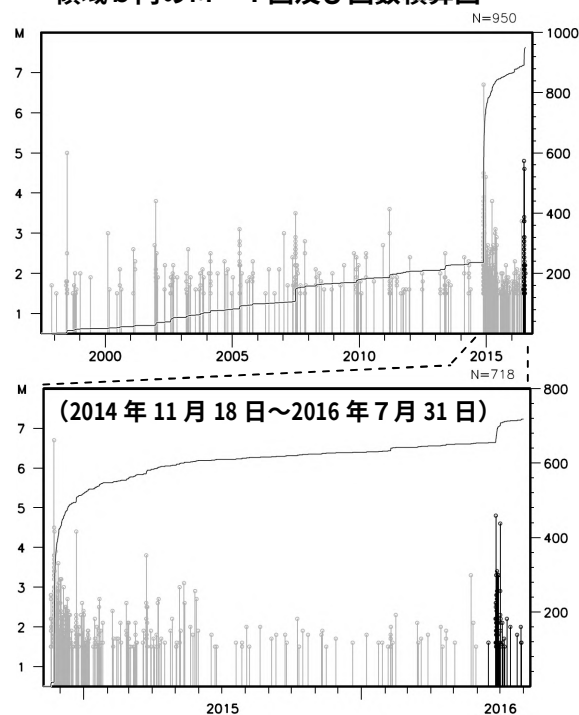
情報発表に用いた震央地名は〔長野県北部〕である。

2016年7月1日08時04分に新潟県上越地方のごく浅い場所でM4.6の地震（最大震度3）が発生した。この地震は地殻内で発生した。発震機構は西北西-東南東方向に圧力軸を持つ横ずれ断層型である。今回の地震の震央付近（領域a）では2016年6月25日にM4.8の地震（最大震度4）の地震が発生するなど、2016年6月25日以降地震活動が活発になっていた。7月2日以降は震度1以上を観測する地震は発生していない。

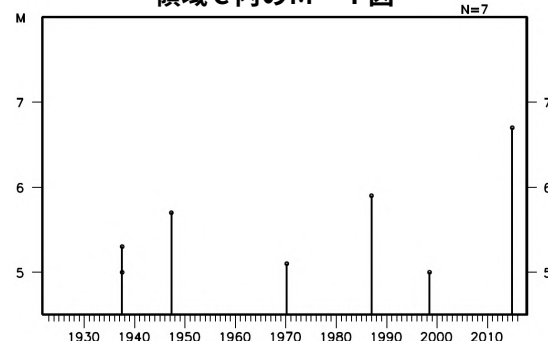
1997年10月以降の活動をみると、領域a内では、M4.0以上の地震は2016年6月25日の地震が初めてであった。今回の地震の震央周辺（領域b）では、今回の地震の震央から南南東に約15km離れた場所で2014年11月22日に発生した地震（M6.7、最大震度6弱）により、負傷者46人、住家全壊77棟などの被害が生じている（被害は総務省消防庁による）。この地震の発生後、領域a内でも地震活動がやや活発となった。

1923年1月以降の活動をみると、今回の地震の震央周辺（領域c）では、2014年11月22日に発生したM6.7の地震が最大規模の地震である。

領域b内のM-T図及び回数積算図



領域c内のM-T図

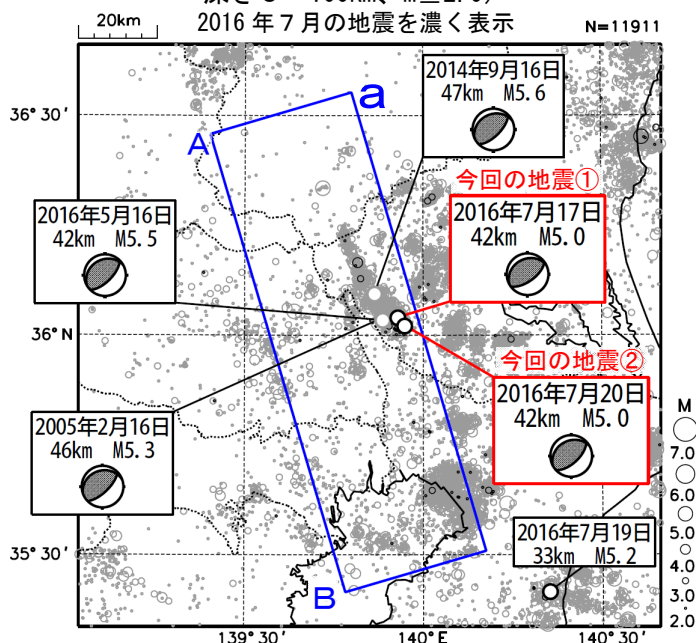


7月17日、20日 茨城県南部の地震

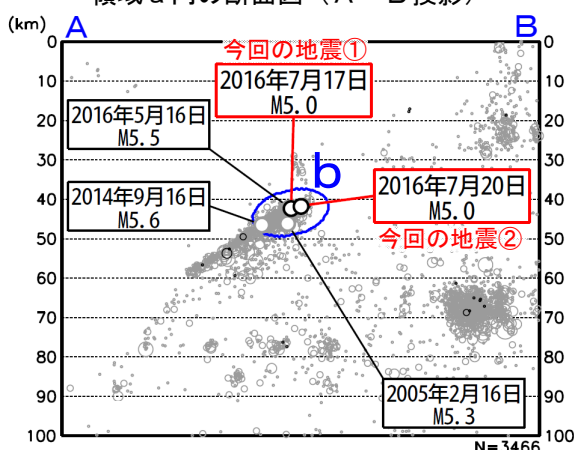
震央分布図

(1997年10月1日～2016年7月31日、
深さ0～100km、 $M \geq 2.0$)

2016年7月の地震を濃く表示

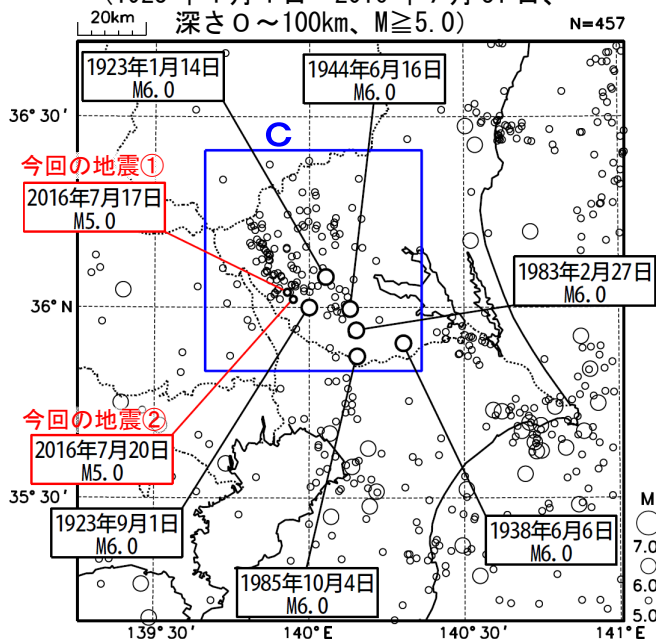


領域a内の断面図 (A-B投影)



震央分布図

(1923年1月1日～2016年7月31日、
深さ0～100km、 $M \geq 5.0$)



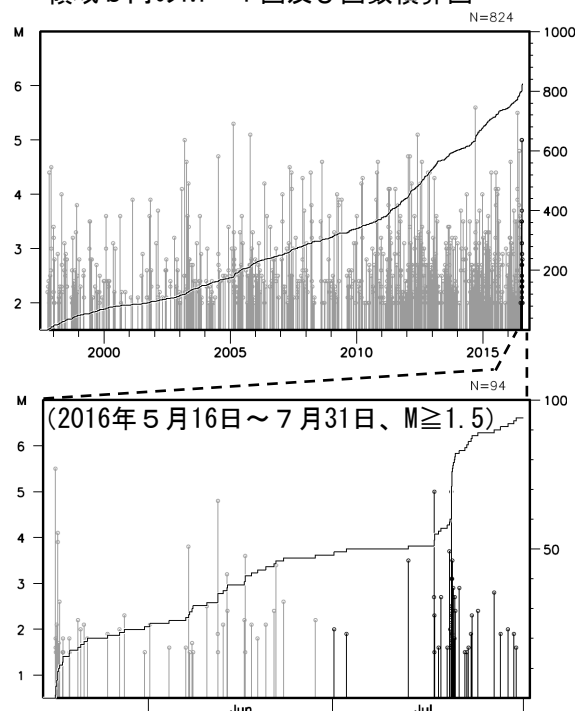
茨城県南部の地震

2016年7月17日13時24分 (今回の地震①) と20日07時25分 (今回の地震②) に、いずれも茨城県南部の深さ42kmで $M 5.0$ の地震 (最大震度4) が発生した。これらの地震は、発震機構が北西-南東方向に圧力軸を持つ逆断層型で、フィリピン海プレートと陸のプレートの境界で発生した。20日の地震の発生後にはややまとまった地震活動がみられた。

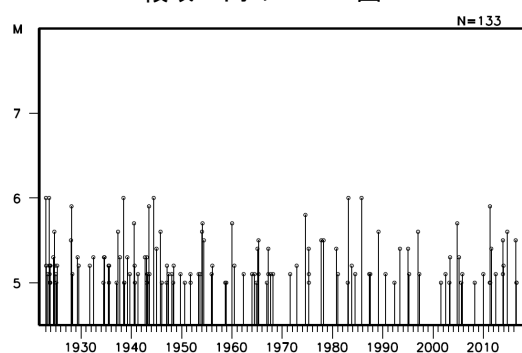
1997年10月以降の活動をみると、今回の地震の震源付近 (領域b) は、活動が活発な領域で、 $M 5$ 程度の地震がしばしば発生している。最近では、2016年5月16日に $M 5.5$ の地震 (最大震度5弱) が発生している。

1923年1月以降の活動をみると、今回の地震の震央周辺 (領域c) では、 $M 6$ 程度の地震が時々発生している。

領域b内のM-T図及び回数積算図

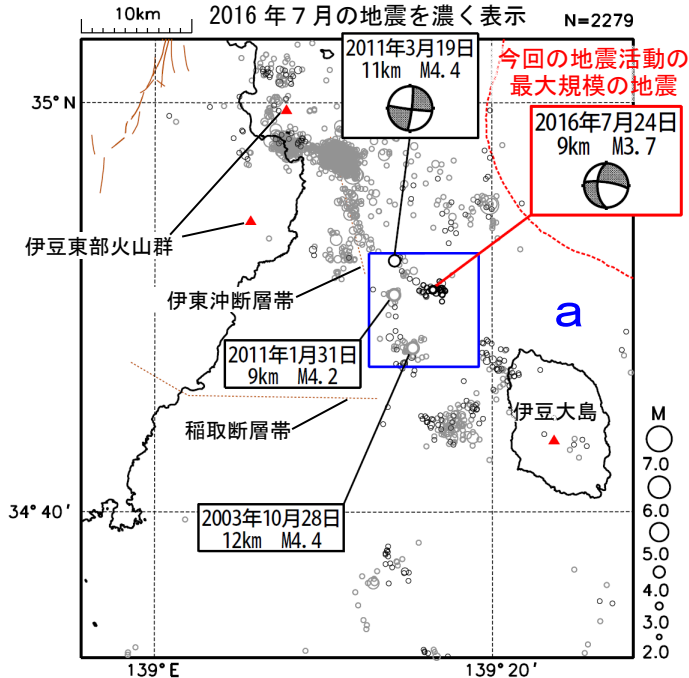


領域c内のM-T図



7月17日からの伊豆大島近海の地震活動

震央分布図（1997年10月1日～2016年7月31日、
深さ0～30km、 $M \geq 2.0$ ）

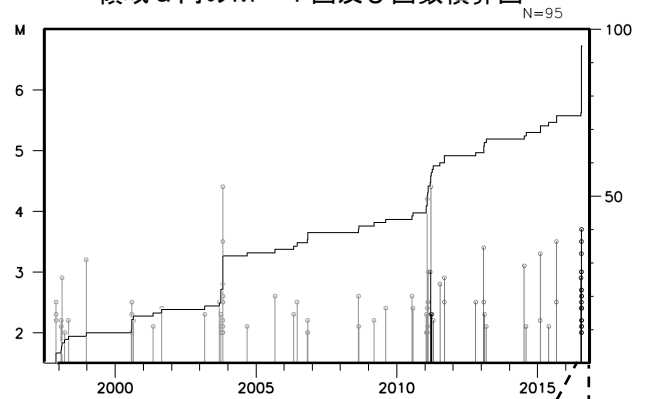


図中の細線は地震調査研究推進本部の長期評価による活断層を示す

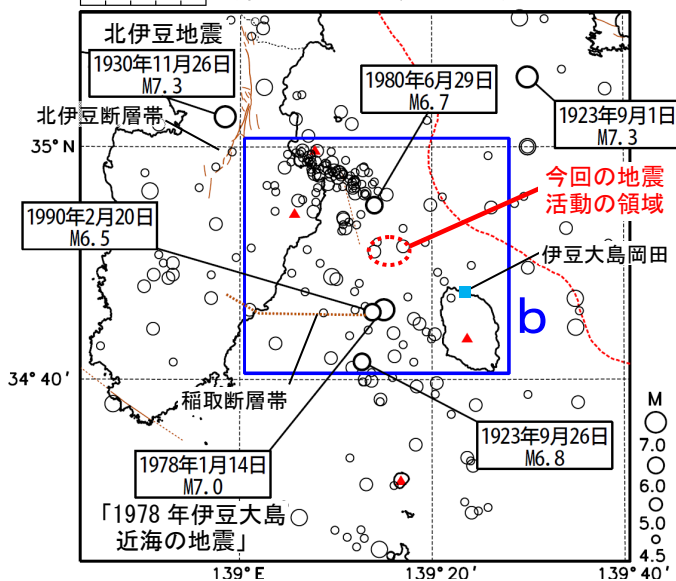
2016年7月17日から伊豆大島近海で地震活動がやや活発になり、7月24日13時54分に最大規模のM3.7の地震（最大震度3）が発生するなど、震度1以上を観測する地震が18回発生した。7月26日以降は震度1以上を観測する地震は発生しておらず、地震活動は低下している。

1997年10月以降の活動をみると、今回の地震の震央付近（領域a）では、2003年、2011年にもやや活発な地震活動がみられている。

領域a内のM-T図及び回数積算図

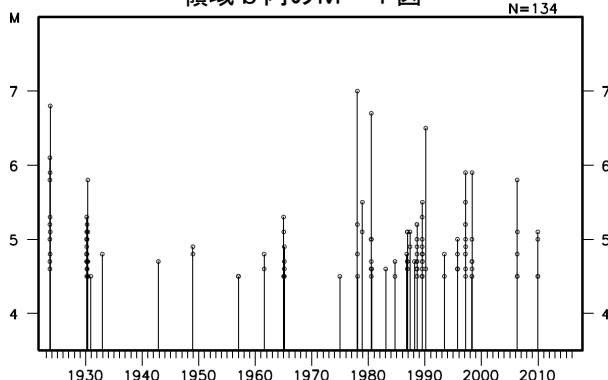


震央分布図（1923年1月1日～2016年7月31日、
深さ0～50km、 $M \geq 4.5$ ）

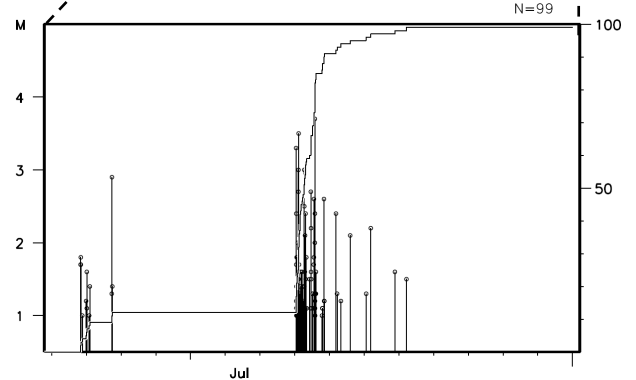


図中の細線は地震調査研究推進本部の長期評価による活断層を示す

領域b内のM-T図



(2016年7月17日～7月31日、 $M \geq 1.0$)



1923年1月以降の活動をみると、今回の地震の震央周辺（領域b）では、M6.5以上の地震が4回発生している。最大規模の地震は、稲取断層帯の最新の活動である「1978年伊豆大島近海の地震」のM7.0で、この地震により、伊豆半島で死者25人、負傷者211人、住家全壊96棟等の被害が生じた（「日本被害地震総覧」による）。また、伊豆大島岡田で70cm（最大全振幅）等の津波が観測された。

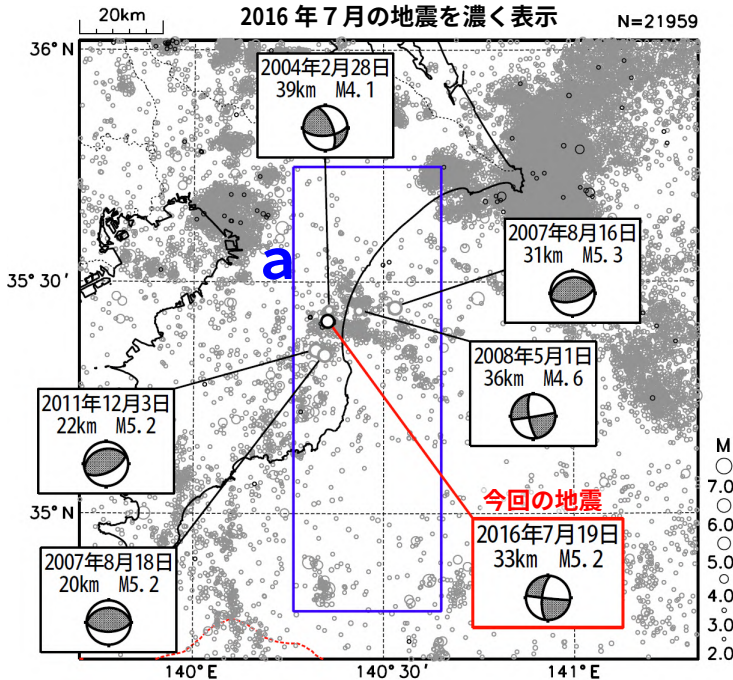
7月19日 千葉県北東部の地震

震央分布図

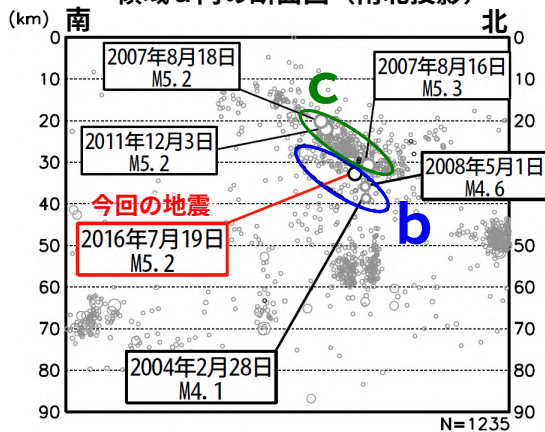
(1997年10月1日～2016年7月31日、
深さ0～60km、 $M \geq 2.0$)

2016年7月の地震を濃く表示

N=21959



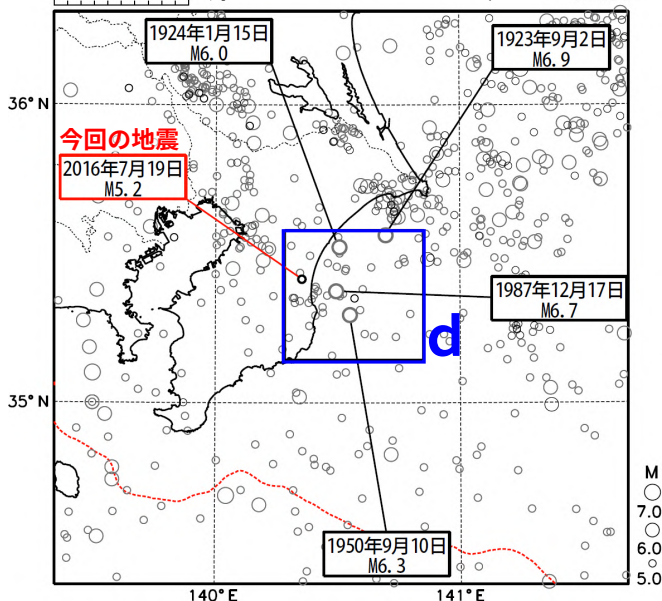
領域a内の断面図 (南北投影)



震央分布図

(1923年1月1日～2016年7月31日、
深さ0～120km、 $M \geq 5.0$)

N=686

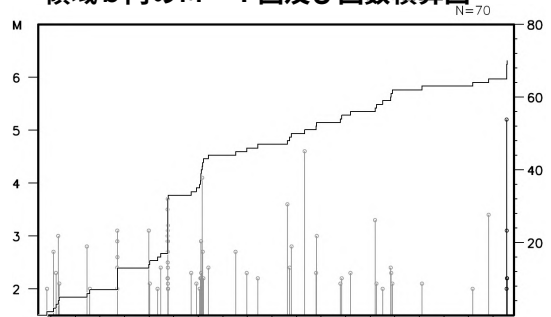


情報発表に用いた震央地名は〔千葉県東方沖〕である。

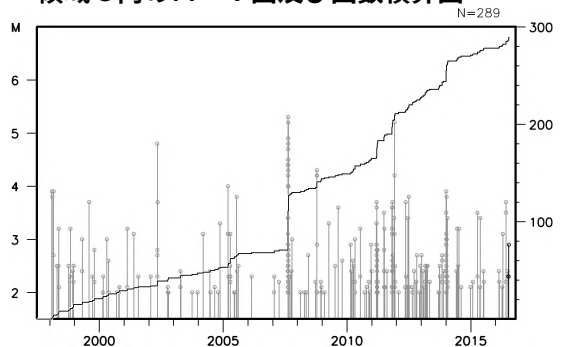
2016年7月19日12時11分に千葉県北東部の深さ33kmでM5.2の地震 (最大震度4) が発生した。この地震は、発震機構が北西-南東方向に張力軸を持つ横ずれ断層型で、フィリピン海プレート内部で発生した。

1997年10月以降の活動をみると、今回の地震の震源付近 (領域b) では、M5.0以上の地震は初めてであった。なお、今回の地震の震源より10km程度浅いフィリピン海プレートと陸のプレートの境界 (領域c) では、ゆっくりすべりに伴って発生したものと考えられる地震活動がみられる。

領域b内のM-T図及び回数積算図

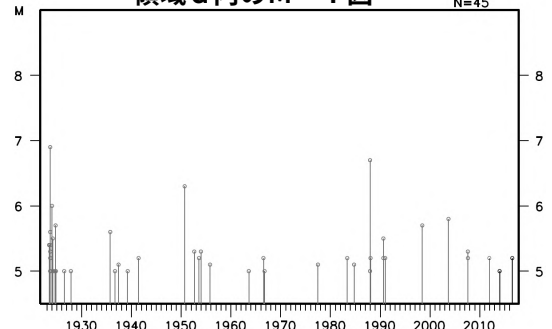


領域c内のM-T図及び回数積算図



1923年以降の活動をみると、今回の地震の震央周辺 (領域d) では、M6.0以上の地震が4回発生しており、そのうち、1987年12月17日に深さ67kmで発生したM6.7の地震 (最大震度5) では、死者2人、負傷者161人、住家全壊16棟、住家半壊102棟、住家一部破損72,580棟などの被害が生じた (被害は「日本被害地震総覧」による)。

領域d内のM-T図



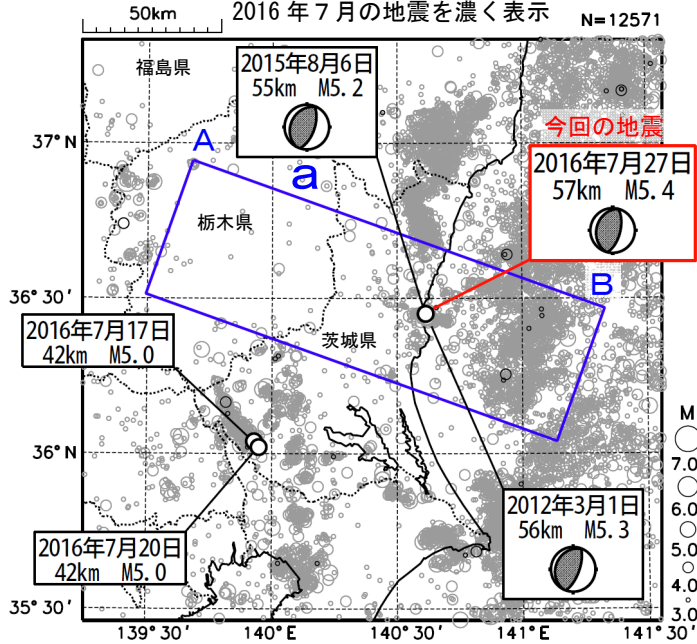
7月27日 茨城県北部の地震

震央分布図

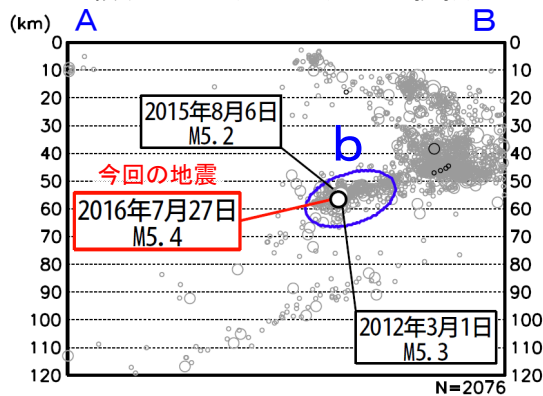
(1997年10月1日～2016年7月31日、
深さ0～150km、 $M \geq 3.0$)

2016年7月の地震を濃く表示

N=12571



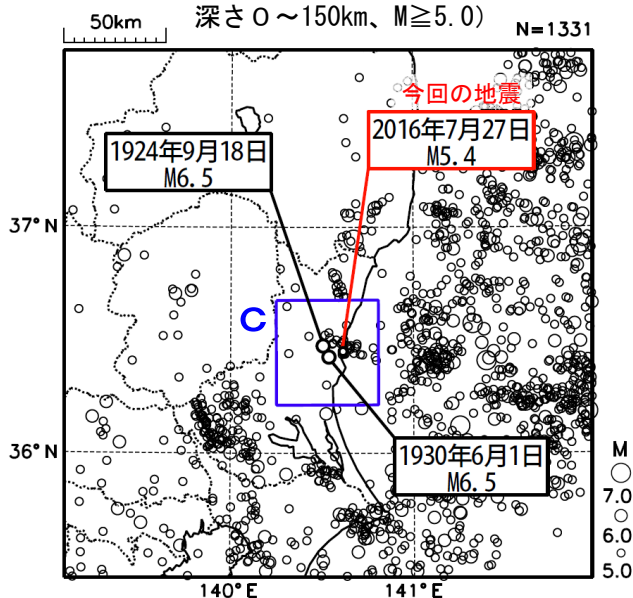
領域a内の断面図 (A-B投影)



震央分布図

(1923年1月1日～2016年7月31日、
深さ0～150km、 $M \geq 5.0$)

N=1331

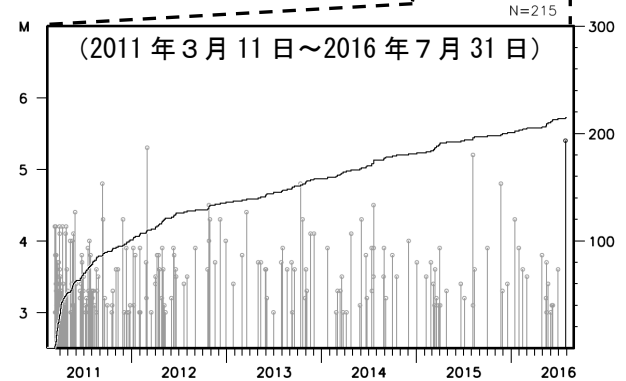
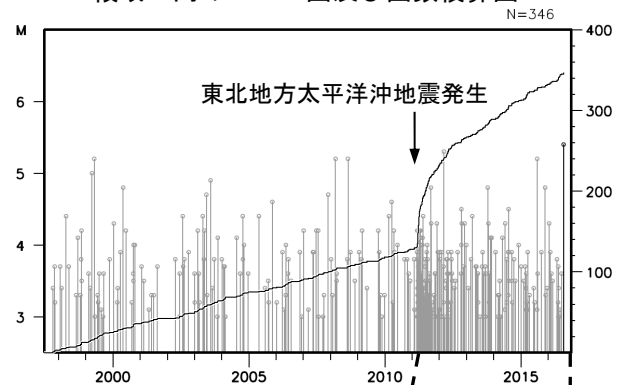


2016年7月27日23時47分に茨城県北部の深さ57kmでM5.4の地震 (最大震度5弱) が発生した。この地震は、発震機構が西北西-東南東方向に圧力軸を持つ逆断層型で、太平洋プレートと陸のプレートの境界で発生した。

1997年10月以降の活動をみると、今回の地震の震源付近 (領域b) は、M5程度の地震が時々発生している。「平成23年 (2011年) 東北地方太平洋沖地震」の発生以降、活動がより活発になっており、2012年3月1日にはM5.3の地震 (最大震度5弱) が発生している。

1923年1月以降の活動をみると、今回の地震の震央付近 (領域c) では、M5.0以上の地震が度々発生しており、このうち、1930年6月1日に発生したM6.5の地震 (最大震度5) では、がけ崩れ、煙突倒壊などの被害が生じた (「日本被害地震総覧」による)。

領域b内のM-T図及び回数積算図



領域c内のM-T図

